

足元の暮らし向きは4年ぶりに改善、先行きは悪化見通し

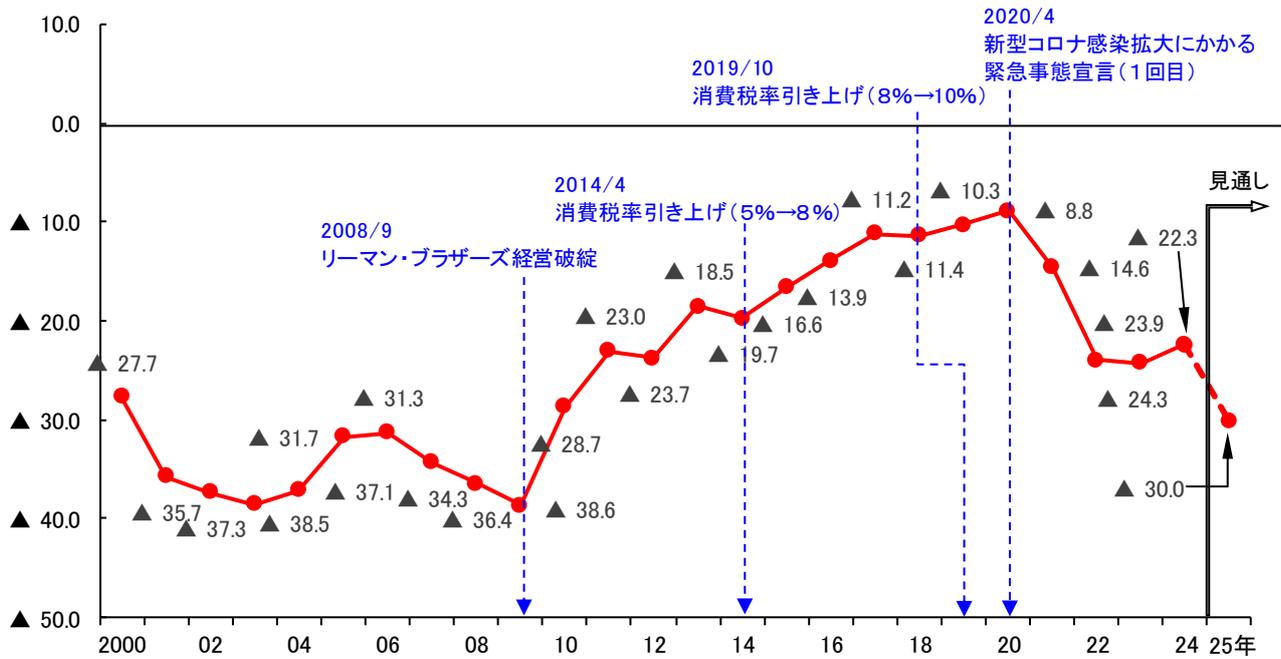
～収入は上向いたものの、家計のゆとりには結びつかず～

当行では、山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元(2024年11月)の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなった」が3.9%、「悪くなった」が26.2%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）」は前回調査（▲24.3）比2.0ポイント増の▲22.3と4年ぶりに上昇した。

なお、先行き（2025年）の「暮らし向き判断DI」は、7.7ポイント減の▲30.0と低下する見通しとなっている。

図表1. 暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）の推移



【調査要領】

1. 期 間 2024年11月1日～11月18日
2. 対 象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行営業店等の店頭にてwebアンケートを依頼、または配布した調査票を郵送により回収
4. 回答数 配布数2,480枚、有効回答数440（回収率17.7%）
5. 回答者構成比 10・20代5.9%、30代12.3%、40代26.4%、50代以上55.5%

〔調査結果の概要〕

1. 暮らし向き

○足元（2024年11月）の「暮らし向き判断DI」は、前回調査（▲24.3）比2.0ポイント増の▲22.3と4年ぶりに上昇した。しかし、先行き（2025年）は▲30.0とリーマン・ショックの影響が残っていた2010年並みの水準まで低下する見通しとなっている。

2. 総収入の動向

○「総収入判断DI」は前回調査比6.1ポイント増の13.7と3年連続で上昇した。

3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断DI」は、前回調査比2.8ポイント増の55.3と2年ぶりに上昇した。

○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて低下した。

4. 今後の家計の重点

○家計負担が増すなかでも「貯蓄の充実」や「健康増進」などが上位となった。

○「食生活の向上」の増加幅が2020年以来の大きさとなるなど、家計をやりくりして物価高に対応しようとする行動している様子が見えられた。

5. 家計支出の動向

○この1年間で特に支出が増えた費目は「食料・外食費」が最も多く、以下、「水道・光熱費」、「交通費（ガソリン代含む）」など食料品やエネルギー価格の上昇が影響した費目が上位を占めた。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。

○今後1年間で特に支出を増やしたい費目は「旅行・レジャー・娯楽費」が最も多く、以下、「交際費、小遣いなど」、「食料・外食費」など外出型消費にかかる費目が上位を占めた。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「水道・光熱費」だった。

6. 貯蓄動向

○1年前と比べた貯蓄残高について「増加した」が「減少した」を上回った。

○貯蓄残高は『500万円未満』が5割強を占めた。

7. 雇用に対する不安

○全体として不安感が強まっている様子はみられなかった。

8. 「サブスクリプションサービス」について

○サービスの認知度や利用者割合は若年層ほど高かった。

○最も利用しているサービスは「動画配信」で、以下、「音楽配信」、「電子書籍/マンガ」、「ゲーム」、「スポーツ・エクササイズ」などとなった。

本調査の詳細版については [当行HP「山陰の経済情報」](#) をご覧ください